

ダストボックス

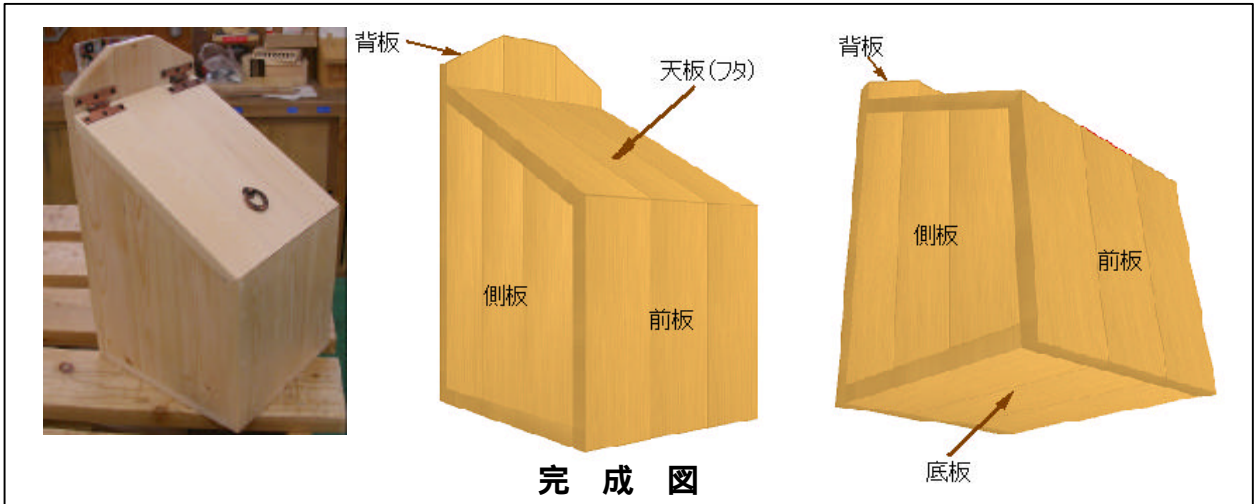
1X4材を張り合わせて、作るダストボックスです。この工作は「もでりんV2」で作図した図を元に作りました。

材料： 1X4材 長さ1,820mm 4本

木ネジ (コーススレッド長さ40mm) 約24本

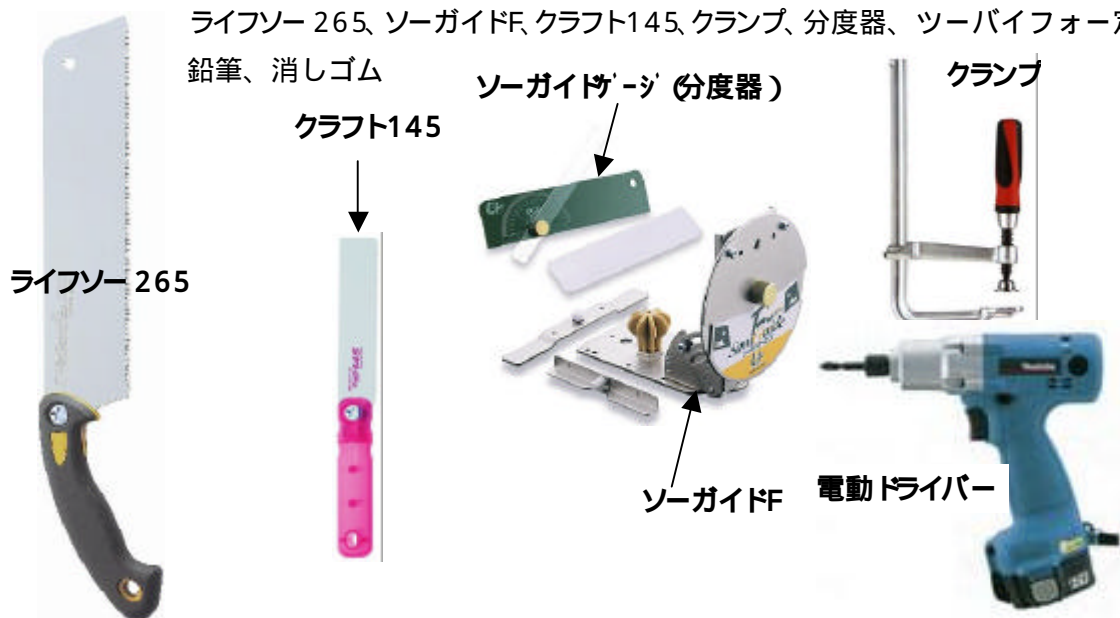
蝶番 (ちょうつがい) 2組

クギ、タボ、木工用接着剤



使用する工具：

ライフソー 265、ソーガイドF、クラフト145、クランプ、分度器、ツーバイフォー定規、鉛筆、消しゴム



作り方：

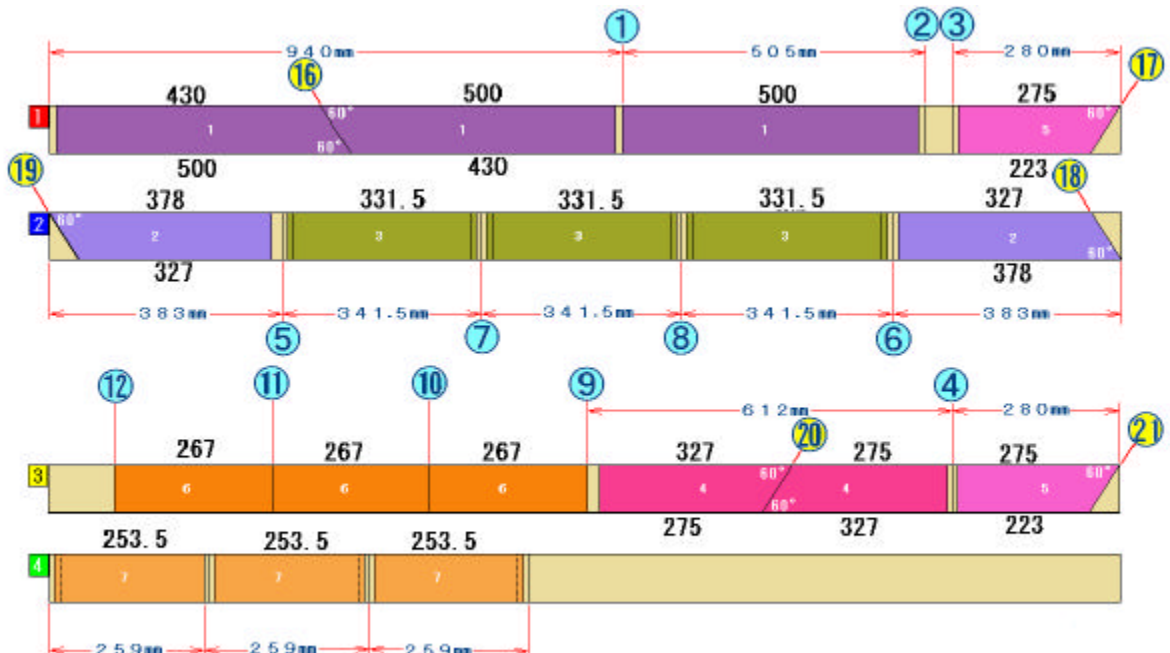
1. 材料切断 (1X4材 長さ1820mm 4本を「のこぎり」で切ります。)

切る順序

切る順序は次の図に①②③ ⑬⑭⑮ …のように書き込んであります。全部で21箇所切ります。

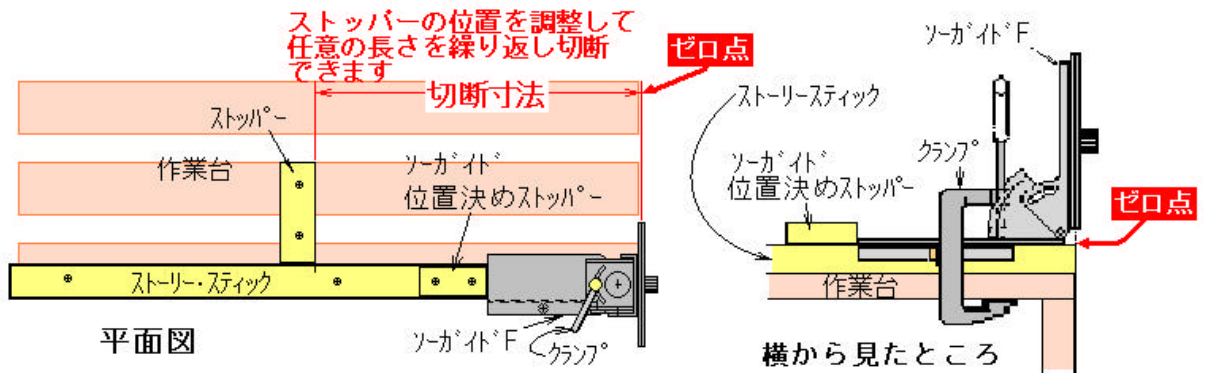
①②③ … 直角切断、

⑬⑭⑮ …… 60° 切断



切り方

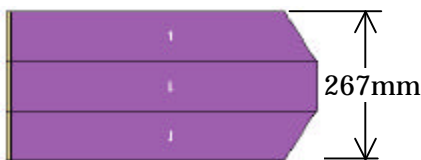
直角切断・・・下図のように、約1mのストーリースティックを作って作業台に取り付けておくと、切断する長さを“ゼロ点”から測った位置にストッパーをクランプしておけば、何本でも同じ長さの部材を作ることができます。詳しくは <http://www.life-diy.com/> もくべえ ストーリースティックの製作をご覧ください



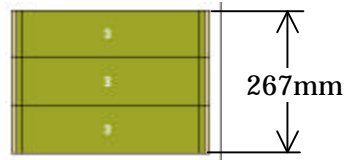
60°切断・・・F型ソーガイドの水平角度を60°に合わせ直角切断と同じようにストーリースティックの端面に固定して切ります。材料の端を切るときは角を狙って切り、中央を切るときはあらかじめ切断の場所を鉛筆で描いておきましょう。

2. 板の張り合わせ

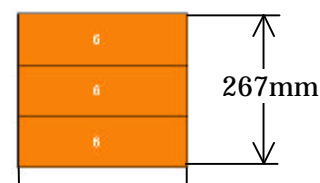
部材番号1の板 3枚で背板



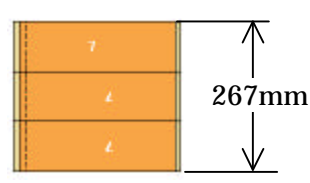
部材番号3の板 3枚でフタ



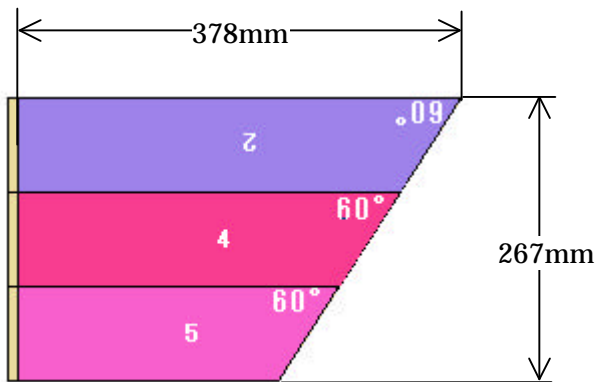
部材番号6の板 3枚で底板



部材番号7の板 3枚で前板



部材番号2, 4, 5の板 3枚で側板を2組



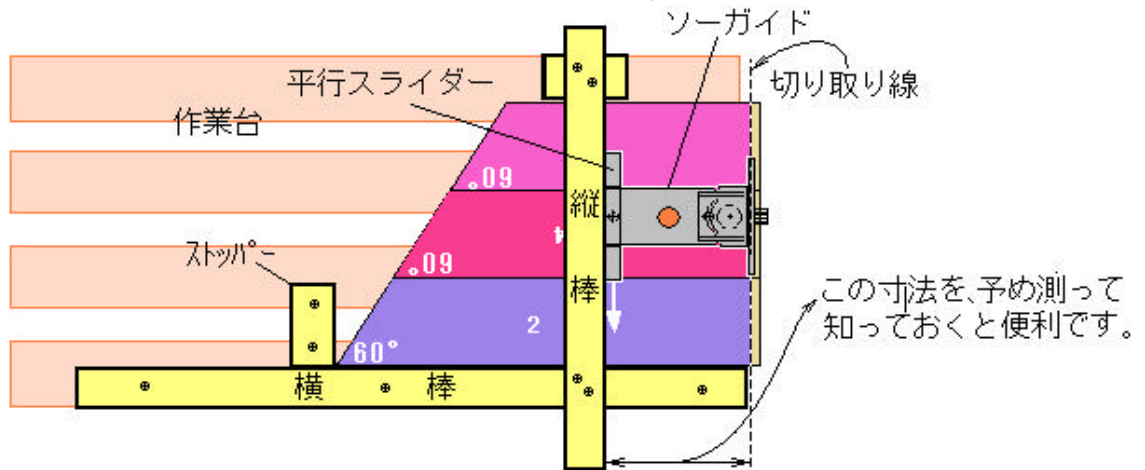
接着する面に木工用接着剤を塗り、右の写真のように、板厚方向を当て木で押さえておいて、側面からクランプで締め付けて、乾燥させます。

長いクランプが無い場合は、2箇所を荷造り用の紐で締め、板と紐の間に、木片などを押し込んで、強く締め付けて圧着することも出来ます。

3. 背板と底板と前板の幅方向、底板と側板の奥行き方向の寸法を確認して、そろえて下さい。全て269mmです。(この確認が終わるまで次の工程には進めません。)

4. 側板の余分長さを、ソーガイドの平行スライダーを使って切り落とします。ストッパーを使って2枚が同じ寸法になるように切ってください。

下図のように直角に交わった、横棒と縦棒を作業台上に釘止めしておけば、ストッパーの位置を変えて、長さを調節し、板の端面の寸法を切ることが出来ます。

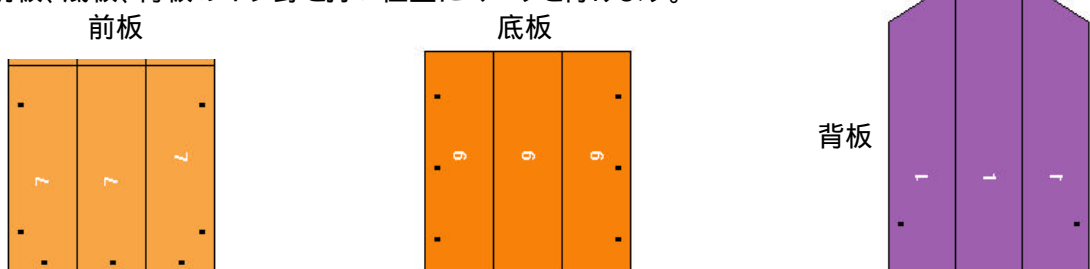


注) 縦棒と側板の間には1~2mmのスキマがあって、切断する板を横棒に沿って左右にスライドできます。

5. 背板の長さ、500mmを縦方向に直角に切ります。これも平行スライダーを付けたソーガイドで上図と同じように切ります。

6. 前板の上端を60°に傾斜切断します。ソーガイドを60°傾斜させれば 平行スライダーを使う切り方は、4.項と同じやり方です。60°の調整はF型ソーガイドの取扱説明書をご覧ください。(フタの両端の60°傾斜切断寸法は、箱を組み立てた後、フタ部分の寸法を測定して決めます。)

7. 前板、底板、背板のネジ釘を打つ位置にマークを付けます。



板の厚さが19mmですから、ネジ釘を入れる位置は板の端から9.5mm、前板と背板の底板へのクギ止め位置は3枚の板の中央に1本づつ。ネジ釘の位置に 直径8mm 深さ10mmの沈み穴をあけます。合計24箇所。

8. 背板に底板を合わせ木ネジで中央付近に軽く1本だけ止めます。これは仮止めです。
9. 背板と底板に側板 1枚につきネジ釘 2本ずつ中央付近を仮止めします。
10. 前板の上部の60°部分を側板の上に出して、左右の側板から1本ずつ、底板から1本、仮止めします。
11. 各部のスキマを見て、クランプで矯正しながら仮止めのネジ釘をドライバーで締めこみます。合計24本を仮に組み立てて見ます。この時、各部のスキマ、突出等をヤスリ等で手直しします。
12. 24本のネジを外して、解体します。
13. 接合面に接着剤を付けて、ネジ止めしますが、24本のネジ釘を全て入れてから、各部のスキマを見て、大きいスキマは矯正しながら締めます。
14. 組立て後、フタの位置の内寸を計測して、フタの部材の内側になる部分にケガキます。ケガキして、6頁のやり方で60°傾斜にフタの両端を切ります。一般的に、フタは箱の寸法より1~2mm小さく作ったほうがきれいに仕上がります。
15. 蝶番を先ずフタに取り付け、定位置に置いて背板にネジ止めの位置をマークし、蝶番1個に木ネジ1本ずつ仮止めして、フタを開閉して不具合が無いことを確かめてから全部のネジを止めます。蝶番やフタの取っ手はホームセンターなどで、好みのものを選んで楽しんでください。
16. 塗装をする場合は、フタを外し、角の部分の面取りや、平面のサンドペーパー磨きを行ってください。
17. **完成**